

**（5） 介護サービス事業所における  
医療職の勤務実態および**

**医療・看護の提供実態に関する横断的な調査  
（速報版）**

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 1. 調査の目的

○本調査では、介護サービス事業所における医療職種のうち医師、看護職員の配置について、配置数・雇用形態及び業務内容、入所者の特性の実態、および介護保険施設等における日常的な医療的ケアの実施状況および看取りの実施状況を把握し、これらの事業所の特性に応じた医療職種の配置のあり方について検討を行う。

### 2. 調査方法

※④医療療養病床の抽出に使用した名簿は、入院基本料等の施設基準について、厚生(支)局へ届出されたものを利用した。

○①介護老人福祉施設(1,600施設、無作為抽出)、②介護老人保健施設(1,600施設、無作為抽出)、③介護療養型医療施設(1,506施設、悉皆)、④医療療養病床を有する医療機関(1,000施設、無作為抽出)に対し、自記式調査票(施設票、従事者票(医師1名、看護職員1名)、利用者票(各施設において全利用者の1/10無作為抽出))を郵送で配布・回収を行った。本資料作成時に使用した施設票の有効回収数(9月10日時点)は、①介護老人福祉施設で605票(有効回収率37.8%)、②介護老人保健施設で712票(有効回収率44.5%)、③介護療養型医療施設で651票(有効回収率43.2%)、④医療療養病床を有する医療機関で249票(有効回収率24.9%)であった。

### 3. 調査結果概要

- オンコールおよび緊急対応の際に医師が呼び出された理由は、介護老人福祉施設では「看取り期の対応」が55.4%を占め、その他「バイタルサインの悪化」「発熱」などが他の理由と比べ高かった。介護老人保健施設、介護療養型医療施設、医療療養病床では、「バイタルサインの悪化」や「発熱」で呼び出される割合が、「看取り期の対応」よりも高かった。
- 看取りの実施方針について、介護老人福祉施設および介護老人保健施設では、半数以上の施設で「看取り期に入った利用者に対し、個別に看取り計画を立てて看取りを行っている」との回答であった。すべての施設類型において、30%以上の施設が「看取り介護を行うための夜間の体制が十分でない」という課題が挙げられた。
- 入院・入所者の要介護度についてみると、特に介護療養型医療施設で要介護5の者の割合が半数を占めていた。また、医療区分については、医療療養病床において医療区分3の者の割合が約30%であった。認知症を有する者については、医療療養病床以外においては80%程度を占めていた。
- 最も適切と考えられる療養の場についてみると、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設、医療療養病床ともに自施設類型が適切との割合が多かったが、介護老人保健施設においては、「介護老人福祉施設」が34.8%を占め、「自宅」(22.9%)や「介護老人保健施設」(26.0%)が適切と考えられる者の割合よりも高かった。
- 介護療養型医療施設の病床転換意向についてみると、全ての病床について転換を予定している医療機関が10.0%を占めていた。転換の意思決定において必要な要素は、「転換後の経営状況・採算性」「現在の介護療養病床の患者の医療ニーズ」「近隣地域の医療および介護のニーズ」等の割合が高く、50%を超えていた。

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 1. 施設の基本属性

○介護老人福祉施設では要介護4、5の者の割合がともに30%程度と多く、介護老人保健施設では要介護1、2の割合が他施設と比較するとやや高く、介護療養型医療施設では要介護5の者の割合が50%を超えていた。

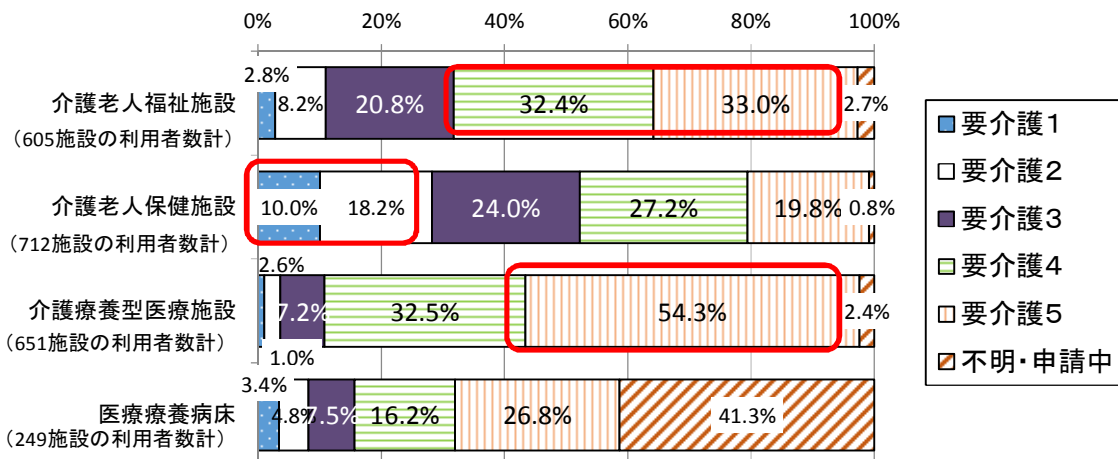
図表1 開設主体

	施設数	公立	社会福祉法人	医療法人	社団・財団法人	個人	その他	無回答
介護老人福祉施設	605	16 2.6%	585 96.7%	-	-	-	4 0.7%	-
介護老人保健施設	712	25 3.5%	113 15.9%	505 70.9%	30 4.2%	-	35 4.9%	4 0.6%
介護療養型医療施設	651	37 5.7%	-	535 82.2%	15 2.3%	37 5.7%	27 4.1%	-
医療療養病床	249	21 8.4%	-	188 75.5%	8 3.2%	9 3.6%	23 9.2%	-

図表2 定員数(人)

	施設数	平均値
介護老人福祉施設	605	76.1
介護老人保健施設	712	90.3
介護療養型医療施設		
うち病院	491	58.8
うち診療所	160	9.5
医療療養病床	249	71.7

図表3 要介護度別利用者数割合



図表4 100床あたり平均職員数(人)

【介護老人福祉施設(n=605)、介護老人保健施設(n=712)】

	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
医師	0.2	1.4
看護職員	6.1	11.7
うち看護師	4.5	6.5
介護職員	44.6	34.4
うち介護福祉士	24.5	21.9
PT	0.1	2.4
OT	0.1	1.7
ST	0.0	0.3

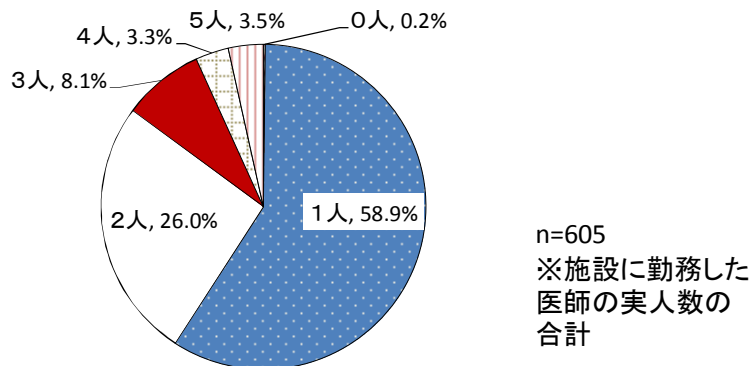
※開設主体および要介護度別利用者数割合について、母集団との比較および、平成23年度介護サービス施設・事業所調査結果と比較したところ、大きな差は見られなかった。

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

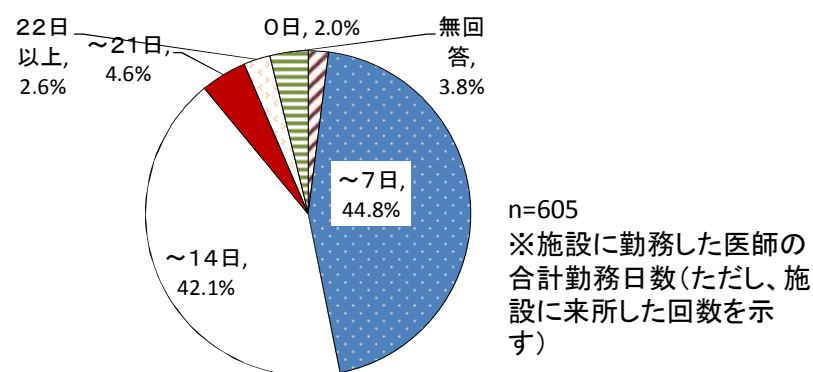
### 2. 医師の勤務状況(介護老人福祉施設)

○介護老人福祉施設において、施設に一月間に勤務した医師数(1施設の合計)は「1人」が最も多く、58.9%であった。勤務日数は1施設当たり「～7日」「～14日」がそれぞれ44.8%、42.1%と同程度であり、平均は7.9日であり、合計勤務時間は1施設当たり「～10時間」「～20時間」がそれぞれ37.4%、35.0%と同程度であり、平均は約18時間であった。

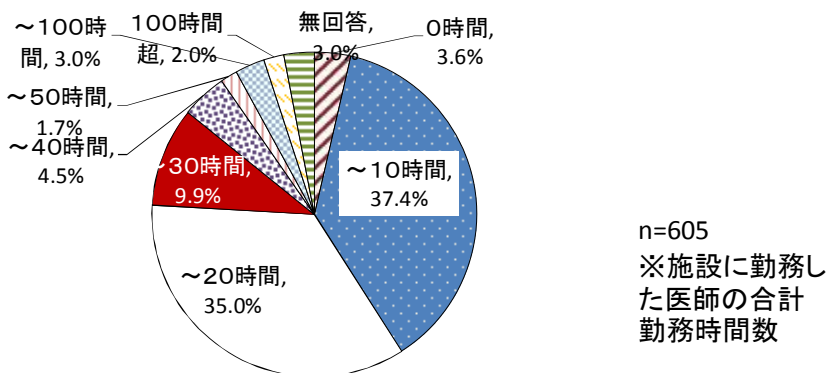
図表5 一月間に勤務した医師数(1施設当たり)



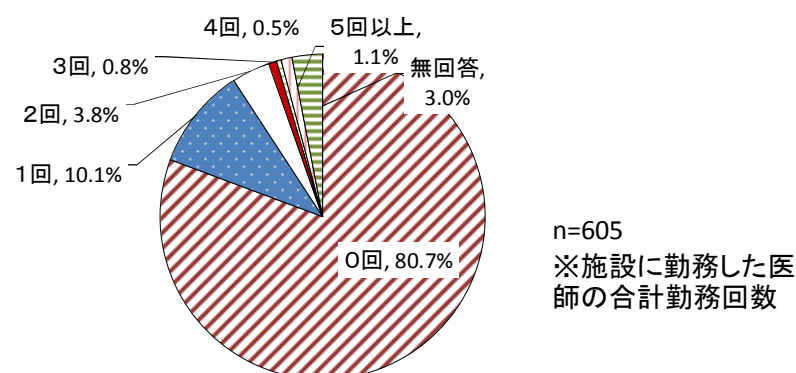
図表6 医師の一月間の勤務日数(1施設当たり)



図表7 医師の一月間の合計勤務時間(1施設当たり)



図表8 医師の一月間の夜間の対応回数(1施設当たり)



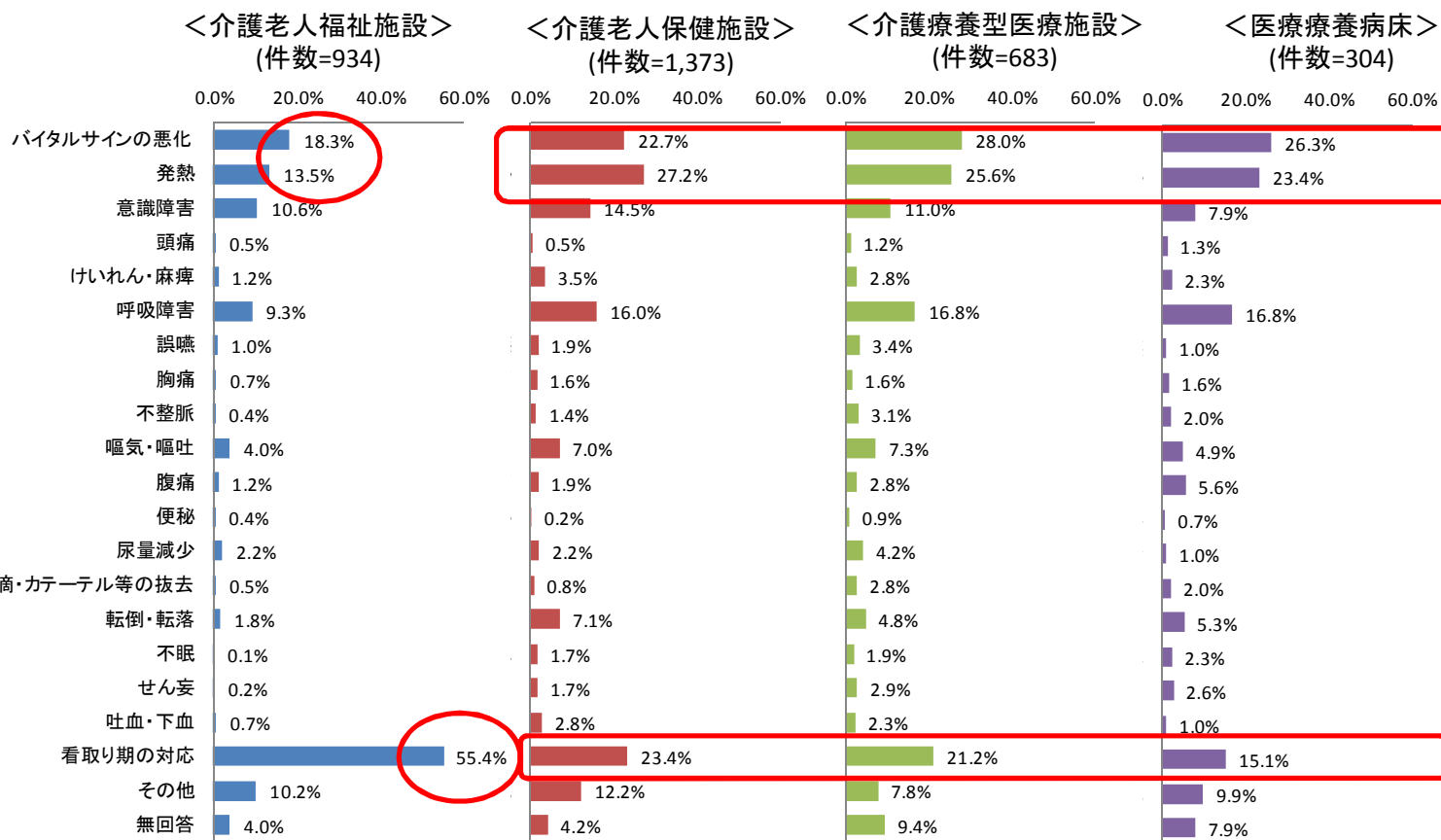
## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 3-1. オンコール・当直時の呼び出しの理由(医師)

○介護老人福祉施設では「看取り期の対応」が55.4%を占め、その他「バイタルサインの悪化」「発熱」などが他の理由と比べ高かった。

○介護老人保健施設、介護療養型医療施設、医療療養病床では、「バイタルサインの悪化」や「発熱」で呼び出される割合が、看取り期の対応よりも高かった。

図表9 利用者／患者の状況(オンコールまたは当直時に呼び出された理由)(複数回答)



※①介護老人福祉施設、②介護老人保健施設については「オンコールの理由」を、③介護療養型医療施設、④医療療養病床については当直日における「呼び出しの理由」を尋ねた。  
 ※調査票に記載した医師は、施設において通常もっとも長い時間勤務している者とした。  
 ※オンコール／呼び出しの回数を5回まで記載することとした。

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 3-2. オンコール・当直時の呼び出しの内容(医師)

- 介護老人福祉施設では「看取り・死亡診断」が64.5%、それ以外の施設では20~30%を占めていた。
- 介護老人保健施設、介護療養型医療施設、医療療養病床では「診察」の割合が最も高く、その他「投薬」「輸液」の等の割合が他の内容と比べて高かった。

図表10 処置内容等(複数回答)

施設	件数	診察	創傷処置(縫合)	創傷以外の処置(縫合)	蘇生処置	看取り・死亡診断	抜去されたカテーテル類の再留	血液検査	心電図検査	画像検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	緊急手術(含む内科)	他医療機関へ搬送	その他	無回答
介護老人福祉施設	934	235 25.2%	1 0.1%	4 0.4%	12 1.3%	602 64.5%	3 0.3%	19 2.0%	14 1.5%	17 1.8%	55 5.9%	59 6.3%	80 8.6%	-	74 7.9%	50 5.4%	53 5.7%
介護老人保健施設	1373	450 32.8%	1 0.1%	15 1.1%	39 2.8%	268 19.5%	9 0.7%	40 2.9%	34 2.5%	26 1.9%	20 1.4%	238 17.3%	283 20.6%	6 0.4%	238 17.3%	212 15.4%	128 9.3%
介護療養型医療施設	683	336 50.5%	7 1.0%	11 1.6%	39 5.7%	159 23.3%	19 2.8%	24 3.5%	34 5.0%	23 3.4%	13 1.9%	134 19.6%	162 23.7%	2 0.3%	10 1.5%	61 8.9%	82 12.0%
医療療養病床	304	194 63.8%	-	3 1.0%	13 4.3%	58 19.1%	5 1.6%	12 3.9%	16 5.3%	14 4.6%	4 1.3%	75 24.7%	80 26.3%	-	3 1.0%	23 7.6%	26 8.6%
合計	3294																

※①介護老人福祉施設、②介護老人保健施設については「オンコールにおける処置内容」を、③介護療養型医療施設、④医療療養病床については当直日における「呼び出しの際の処置内容」を尋ねた。

図表11 「看取り期の対応」の際に実施した処置内容(複数回答)

施設	件数	診察	創傷処置(縫合)	創傷以外の処置(縫合)	蘇生処置	看取り・死亡診断	抜去されたカテーテル類の再留	血液検査	心電図検査	画像検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	緊急手術(含む内科)	他医療機関へ搬送	その他	無回答
介護老人福祉施設	517	73 14.1%	1 0.2%	1 0.2%	4 0.8%	487 94.2%	-	-	3 0.6%	-	17 3.3%	2 0.4%	4 0.8%	-	2 0.4%	7 1.4%	10 1.9%
介護老人保健施設	321	69 21.5%	-	-	12 3.7%	290 90.3%	-	1 0.3%	7 2.2%	-	24 7.5%	2 0.6%	11 3.4%	-	-	28 8.7%	8 2.5%
介護療養型医療施設	145	61 42.1%	2 1.4%	2 1.4%	18 12.4%	116 80.0%	2 1.4%	2 1.4%	8 5.5%	1 0.7%	32 22.1%	3 2.1%	16 11.0%	-	1 0.7%	7 4.8%	7 4.8%
医療療養病床	46	13 28.3%	-	-	4 8.7%	37 80.4%	-	-	1 2.2%	-	3 6.5%	4 8.7%	3 6.5%	-	-	1 2.2%	4 8.7%
合計	1029																

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

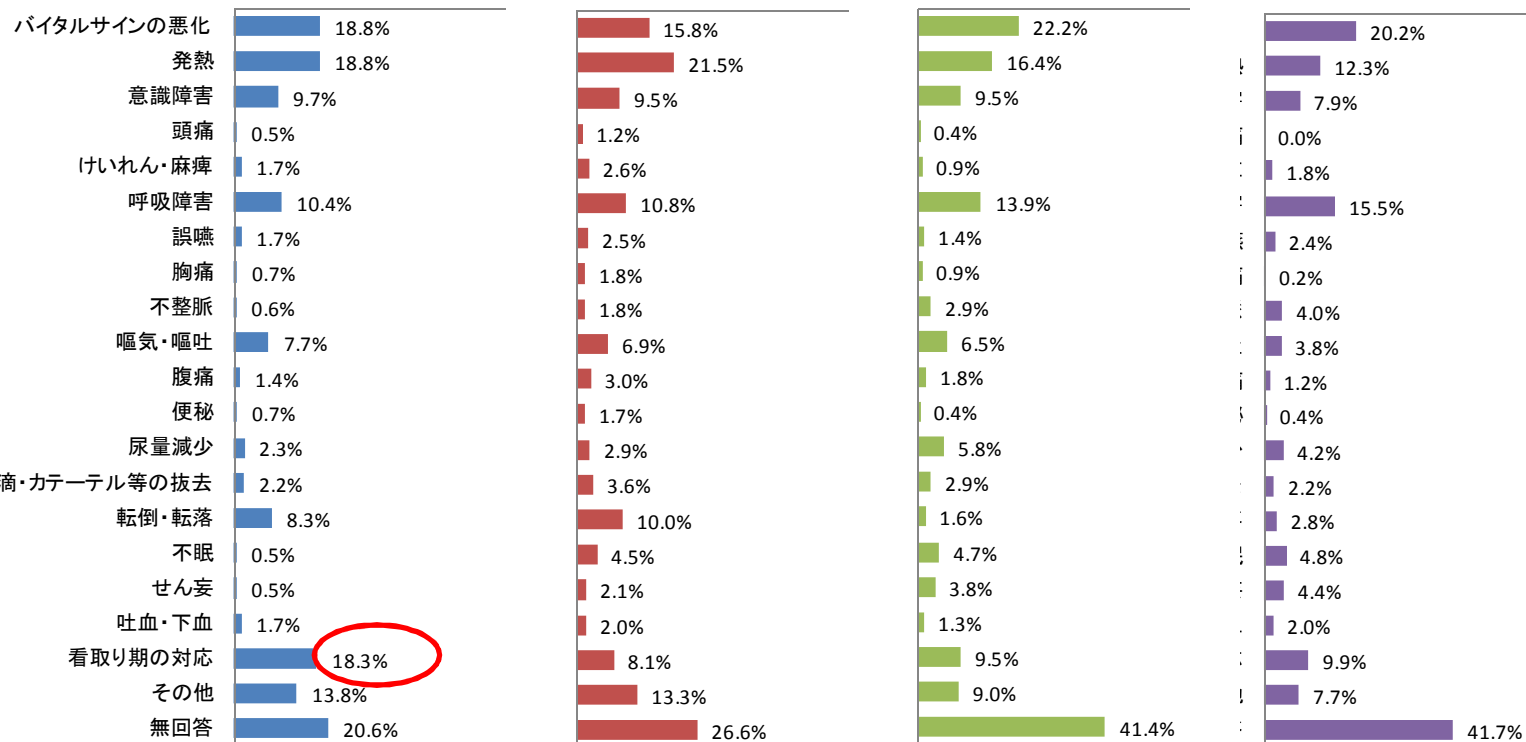
### 3-3. オンコール・緊急対応の内容(看護職員)

○介護老人福祉施設では「看取り期の対応」が18.3%であり、「バイタルサインの悪化」「発熱」で呼び出される割合とほぼ同様であった。介護老人保健施設では「発熱」が最も多く、介護療養型医療施設と医療療養病床では「バイタルサインの悪化」が最も多かった。

図表12 利用者／患者の状況(オンコールまたは緊急対応の際、呼び出された理由)(複数回答)

<介護老人福祉施設> (件数=1736)      <介護老人保健施設> (件数=2006)      <介護療養型医療施設> (件数=1393)      <医療療養病床> (件数=504)

0.0% 20.0% 40.0% 60.0%      0.0% 20.0% 40.0% 60.0%      0.0% 20.0% 40.0% 60.0%      0.0% 20.0% 40.0% 60.0%



※①介護老人福祉施設については「オンコールの理由」を、②介護老人保健施設、③介護療養型医療施設、④医療療養病床については夜間勤務日における「緊急対応の理由」を尋ねた。  
 ※調査票を記載した看護職員は、施設において過去1ヶ月に夜勤帯に勤務をされた看護職員の内、通常もっとも長い時間勤務している者とした。  
 ※オンコール／呼び出しの回数は5回まで記載することとした。

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 3-4. オンコール・緊急対応の内容(看護職員)

○どの施設類型においても、「医師への連絡・相談」が多かった。また、看取り期の対応についてみると、介護療養型医療施設、医療療養病床で酸素投与がそれぞれ47.0%、32.0%と高くなっていた。

図表13 処置内容(補助を含む)(複数回答)

施設類型	件数	診察	創傷を伴う処置(縫合)	創傷以外の処置(縫合)	蘇生処置	看取り・死亡診	抜去されたカテーテル類の再留	血液検査	心電図検査	画像検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	緊急手術を含む(内科)	医師への連絡・相談	他医療機関へ搬送	その他	無回答
介護老人福祉施設	1736	245 14.1%	8 0.5%	61 3.5%	33 1.9%	282 16.2%	30 1.7%	42 2.4%	33 1.9%	37 2.1%	159 9.2%	138 7.9%	82 4.7%	1 0.1%	397 22.9%	272 15.7%	438 25.2%	459 26.4%
介護老人保健施設	2006	303 15.1%	4 0.2%	138 6.9%	36 1.8%	126 6.3%	55 2.7%	34 1.7%	48 2.4%	25 1.2%	222 11.1%	254 12.7%	309 15.4%	0 0.0%	578 28.8%	276 13.8%	401 20.0%	581 29.0%
介護療養型医療施設	1393	232 16.7%	2 0.1%	14 1.0%	28 2.0%	96 6.9%	28 2.0%	24 1.7%	49 3.5%	15 1.1%	212 15.2%	75 5.4%	209 15.0%	0 0.1%	321 23.0%	11 0.8%	222 15.9%	663 47.6%
医療療養病床	504	84 16.7%	4 0.8%	11 2.2%	18 3.6%	50 9.9%	10 2.0%	11 2.2%	11 2.2%	2 0.4%	94 18.7%	41 8.1%	61 12.1%	-	131 26.0%	2 0.4%	93 18.5%	221 43.8%
合計	5639																	

※①介護老人福祉施設については「オンコールにおける対応内容」を、②介護老人保健施設、③介護療養型医療施設、④医療療養病床については夜間勤務日における「緊急対応の内容」を尋ねた。

図表14 「看取り期の対応」の際に実施した処置内容(補助を含む)(複数回答)

施設類型	件数	診察	創傷を伴う処置(縫合)	創傷以外の処置(縫合)	蘇生処置	看取り・死亡診	抜去されたカテーテル類の再留	血液検査	心電図検査	画像検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	緊急手術を含む(内科)	医師への連絡・相談	他医療機関へ搬送	その他	無回答
介護老人福祉施設	317	57 18.0%	1 0.3%	2 0.6%	10 3.2%	249 78.5%	4 1.3%	2 0.6%	9 2.8%	1 0.3%	35 11.0%	3 0.9%	5 1.6%	1 0.3%	156 49.2%	9 2.8%	65 20.5%	10 3.2%
介護老人保健施設	162	39 24.1%	-	6 3.7%	7 4.3%	100 61.7%	4 2.5%	8 4.9%	8 4.9%	2 1.2%	35 21.6%	16 9.9%	49 30.2%	-	75 46.3%	3 1.9%	41 25.3%	2 1.2%
介護療養型医療施設	132	43 32.6%	-	1 0.8%	11 8.3%	67 50.8%	-	1 0.8%	20 15.2%	1 0.8%	47 47.0%	-	27 20.5%	-	77 58.3%	1 0.8%	25 18.9%	9 6.8%
医療療養病床	50	16 32.0%	2 4.0%	3 6.0%	4 8.0%	35 70.0%	1 2.0%	3 6.0%	4 8.0%	1 2.0%	16 32.0%	4 8.0%	8 16.0%	-	32 64.0%	-	12 24.0%	3 6.0%
合計	5639																	



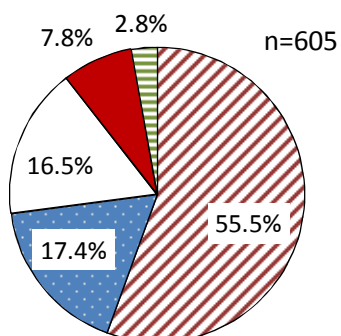
## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 4-1. 看取りの状況

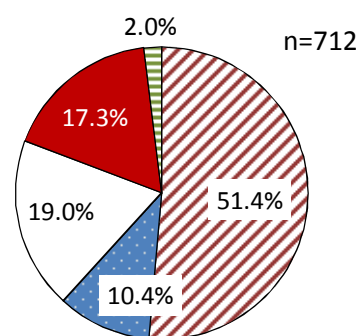
○看取りの実施方針について、介護老人福祉施設および介護老人保健施設では、半数以上の施設で「看取り期に入った利用者に対し、個別に看取り計画を立てて看取りを行っている」との回答であった。介護療養型医療施設、医療療養病床では「看取り期に入った利用者に対し看取りは行っているが、看取りの計画は立てていない」という回答が50%~60%を占めていた。

図表15 看取りの実施方針(施設票)

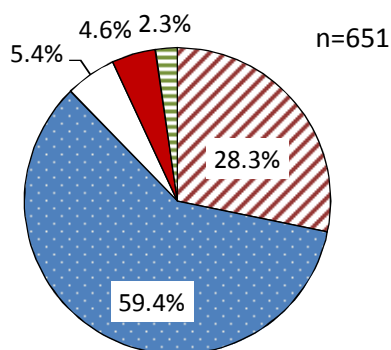
#### ①介護老人福祉施設



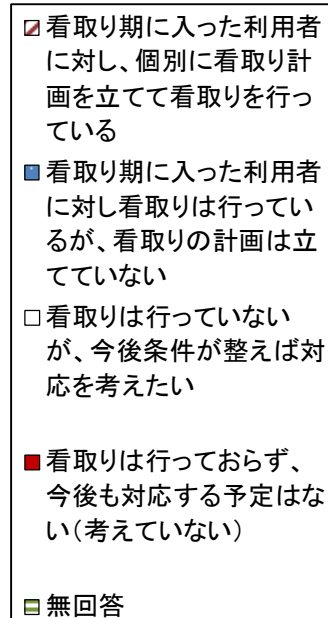
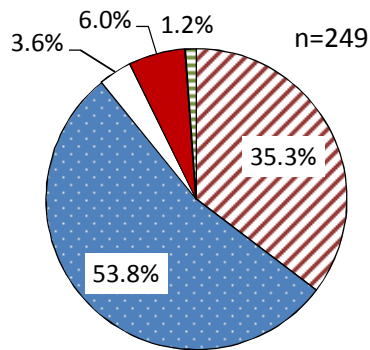
#### ②介護老人保健施設



#### ③介護療養型医療施設



#### ④医療療養病床



(5)介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

4-2. 看取りの状況

- 死亡退所者の内訳を見ると、介護老人福祉施設において「個別看取り計画を立てた利用者数」は全体の31.9%、介護老人保健施設においては56.8%であった。
- 4施設すべてにおいて、30%以上の施設が「看取り介護を行うための夜間の体制が十分でない」という課題を挙げている。

図表16 死亡退所のうち、個別に看取り計画を立てた者の割合

	件数	0%	10%未満	20%未満	30%未満	40%未満	50%未満	60%未満	70%未満	80%未満	90%未満	100%	無回答	(単位：%) 平均値	標準偏差
介護老人福祉施設	605	31.2%	-	0.5%	3.0%	2.3%	1.3%	5.6%	4.5%	1.7%	2.0%	-	39.3%	31.9	37.9
介護老人保健施設	712	15.9%	-	0.1%	0.7%	1.5%	0.8%	3.4%	2.0%	2.1%	1.8%	20.5%	50.8%	56.8	43.8
介護療養型医療施設	651	38.1%	-	-	0.6%	0.3%	0.2%	0.9%	1.1%	1.2%	1.5%	16.6%	39.0%	33.9	45.3
医療療養病床	249	54.2%	-	0.8%	1.2%	0.8%	0.8%	0.8%	1.2%	2.4%	2.8%	17.7%	15.7%	30.3	43.1

図表17 看取りに関する課題(複数回答可)

施設数	施設極端の方針として	医師の難し	医療機関との連携	携内職員の連	看取り介	利用者の医療的	備置が少な	施設内で行	看取の介	不足して	看取の介	看取の介	看取の介	看取の介	看取の介	看取の介	看取の介	看取の介	その他	無回答
介護老人福祉施設	605	7.8%	25.1%	23.0%	8.1%	17.2%	22.0%	30.2%	25.1%	19.8%	34.7%	28.6%	36.4%	11.7%	36.5%	4.1%	5.1%	5.8%	13.4%	
介護老人保健施設	712	23.5%	22.8%	14.2%	7.3%	38.6%	26.4%	27.5%	28.8%	21.5%	35.3%	41.9%	34.8%	8.4%	40.0%	7.0%	5.9%	2.8%	10.1%	
介護療養型医療施設	651	13.5%	8.6%	6.9%	1.7%	41.0%	9.4%	17.1%	25.7%	19.2%	35.6%	20.3%	19.2%	3.5%	35.5%	1.4%	5.4%	6.1%	13.4%	
医療療養病床	249	15.3%	12.4%	9.2%	1.6%	33.3%	10.0%	18.9%	27.3%	19.7%	34.9%	21.7%	21.3%	4.0%	34.1%	3.2%	8.0%	10.8%	7.6%	

## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 5. 看取り期における医療機関への搬送

- 医療機関への搬送を決定した理由としては、介護療養型医療施設と医療療養病床においては「緊急手術が必要となったため」の割合が20 %程度と高かった。
- 医療機関への搬送の際に見られた症状等については、介護老人福祉施設では「バイタルサインの低下」「発熱」がやや多く、介護療養型医療施設と医療療養病床では他の施設と比べて「吐血、下血」がやや多かった。

図表18 医療機関(他の医療機関)への搬送を決定した理由(複数回答)

	施設数	家族・親族の希望	施設で行えない十分なケア	検査が必要となつた	措置が必要となつた	薬(麻薬を除く)の投与	必要となつたため	麻薬による疼痛管理	緊急手術が必要となつたため	状態が対応できない	その他	無回答
介護老人福祉施設	605	219 36.2%	130 21.5%	136 22.5%	202 33.4%	48 7.9%	19 3.1%	23 3.8%	47 7.8%	24 4.0%	235 38.8%	
介護老人保健施設	712	259 36.4%	195 27.4%	233 32.7%	273 38.3%	117 16.4%	33 4.6%	57 8.0%	63 8.8%	15 2.1%	238 33.4%	
介護療養型医療施設	651	220 33.8%	93 14.3%	172 26.4%	198 30.4%	42 6.5%	18 2.8%	119 18.3%	31 4.8%	15 2.3%	283 43.5%	
医療療養病床	249	84 33.7%	27 10.8%	54 21.7%	74 29.7%	13 5.2%	4 1.6%	56 22.5%	13 5.2%	6 2.4%	104 41.8%	

図表19 医療機関への搬送の際に見られた症状・状態(複数回答)

	施設数	バイタルサインの低下	発熱	意識障害	頭痛	けいれん・麻痺	呼吸障害	誤嚥	胸痛	不整脈	嘔気・嘔吐	腹痛	便秘	尿量減少	点滴等の抜去	転倒・転落	不眠	せん妄	吐血・下血	その他	無回答
介護老人福祉施設	605	231 38.2%	152 25.1%	167 27.6%	4 0.7%	36 6.0%	144 23.8%	43 7.1%	20 3.3%	29 4.8%	42 6.9%	23 3.8%	5 0.8%	34 5.6%	3 0.5%	21 3.5%	3 0.5%	5 0.8%	31 5.1%	48 7.9%	245 40.5%
介護老人保健施設	712	270 37.9%	186 26.1%	215 30.2%	5 0.7%	75 10.5%	184 25.8%	45 6.3%	30 4.2%	34 4.8%	61 8.6%	38 5.3%	8 1.1%	53 7.4%	14 2.0%	60 8.4%	2 0.3%	7 1.0%	60 8.4%	77 10.8%	244 34.3%
介護療養型医療施設	651	259 39.8%	90 13.8%	155 23.8%	8 1.2%	58 8.9%	130 20.0%	28 4.3%	38 5.8%	40 6.1%	32 4.9%	41 6.3%	6 0.9%	32 4.9%	6 0.9%	47 7.2%	3 0.5%	6 0.9%	73 11.2%	52 8.0%	308 47.3%
医療療養病床	249	49 19.7%	25 10.0%	48 19.3%	3 1.2%	21 8.4%	45 18.1%	3 1.2%	20 8.0%	19 7.6%	7 2.8%	18 7.2%	4 1.6%	10 4.0%	4 1.6%	19 7.6%	1 0.4%	1 0.4%	37 14.9%	26 10.4%	113 45.4%

# (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

## 6-1. 入所者・入院患者の状況(基本属性)

- 入院・入所者の要介護度についてみると、介護療養型医療施設で特に要介護5の者の割合が半数を占めた。
- 医療区分については、医療療養病床において医療区分3の者の割合が29.1%であった。
- 認知症を有する者については、医療療養病床以外においては80%程度を占めていた。

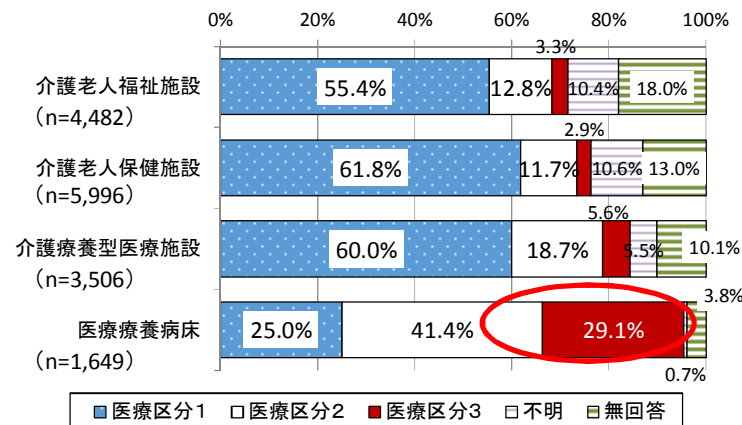
図表20 性別

	件数	男	女	無回答
介護老人福祉施設	4,482	938 20.9%	3529 78.7%	15 0.3%
介護老人保健施設	5,996	1594 26.6%	4380 73.0%	22 0.4%
介護療養型医療施設	3,506	944 26.9%	2552 72.8%	10 0.3%
医療療養病床	1,649	610 37.0%	1037 62.9%	2 0.1%

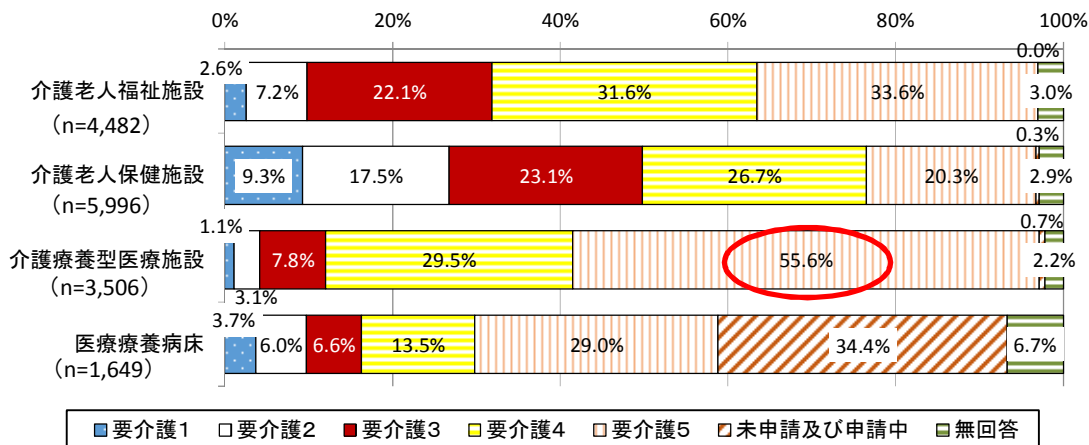
図表21 年齢

	件数	平均(単位均:歳値)	標準偏差
介護老人福祉施設	4,482	86.4	7.8
介護老人保健施設	5,996	85.3	8.5
介護療養型医療施設	3,506	85.4	8.8
医療療養病床	1,649	81.2	11.3

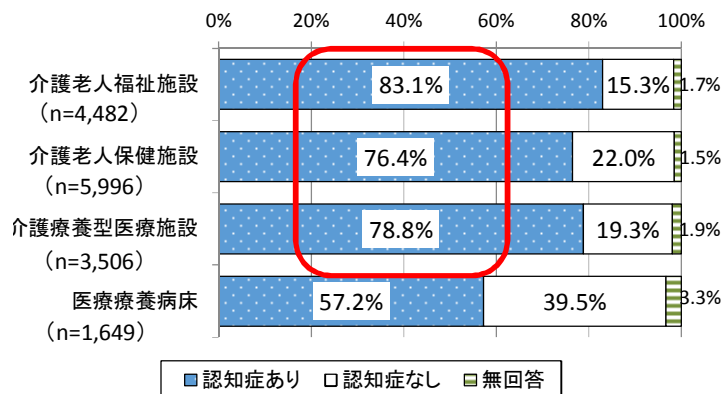
図表22 医療区分



図表23 要介護度



図表24 認知症の有無

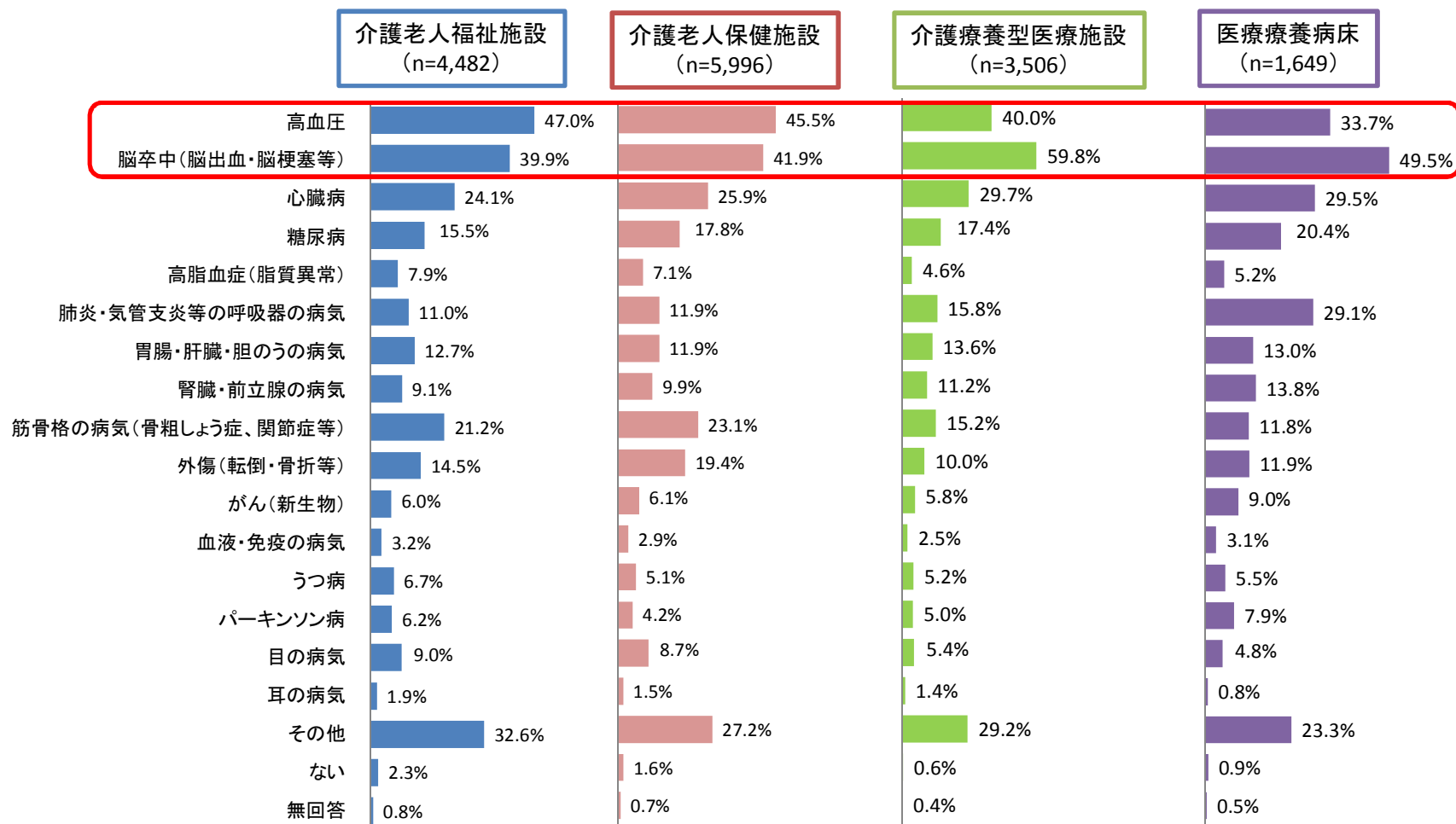


## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 6-2. 入所者・入院患者の状況(傷病の状況)

○有している傷病については、「高血圧」、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」等の割合が高かった。

図表25 有している傷病(複数回答)

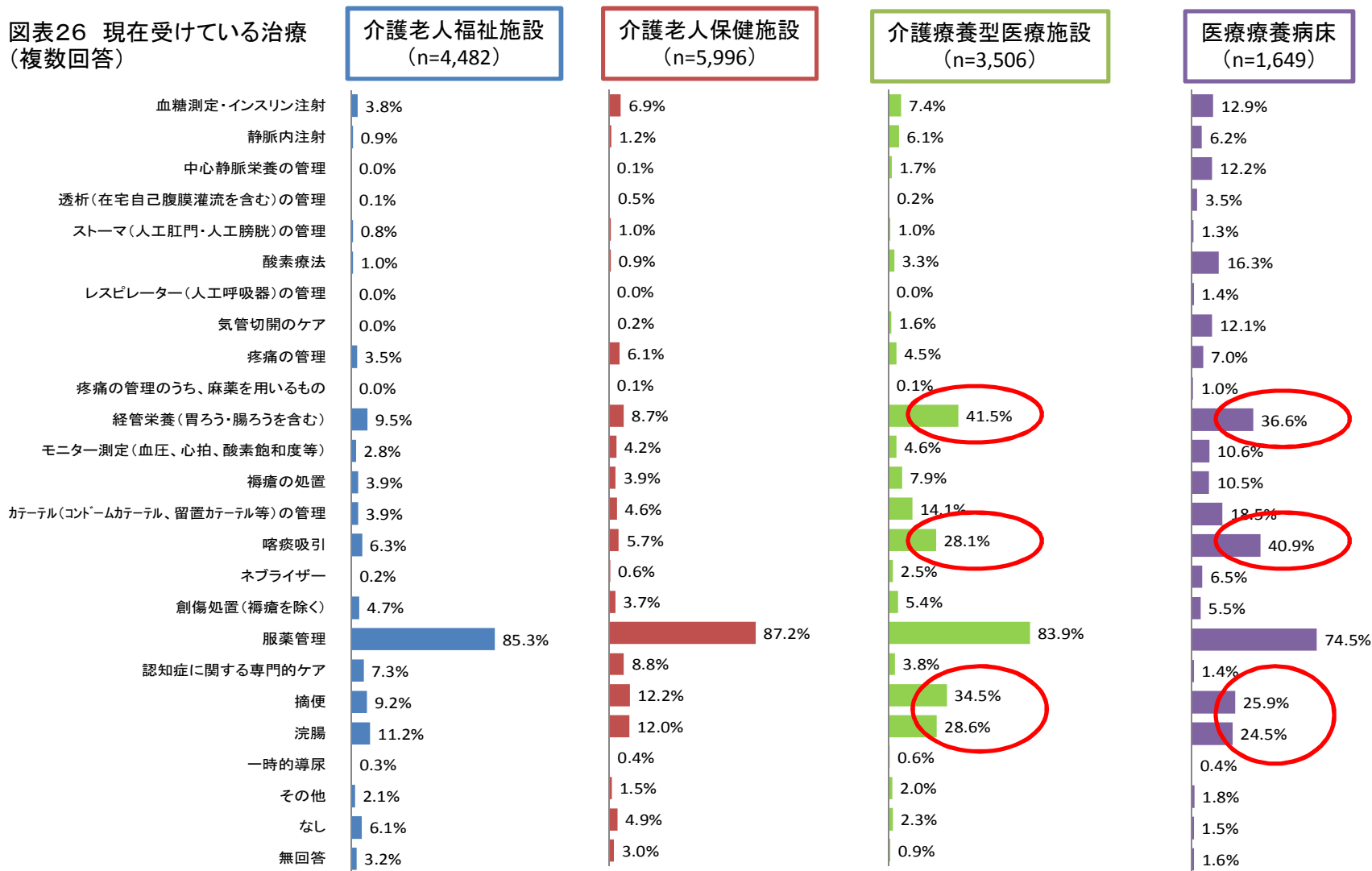


## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 6-3. 入所者・入院患者の状況(治療の状況)

○医療処置の状況については、介護療養型医療施設、医療療養病床において「経管栄養」「喀痰吸引」「浣腸」「排便」等を実施している者の割合が高かった。

図表26 現在受けている治療  
(複数回答)

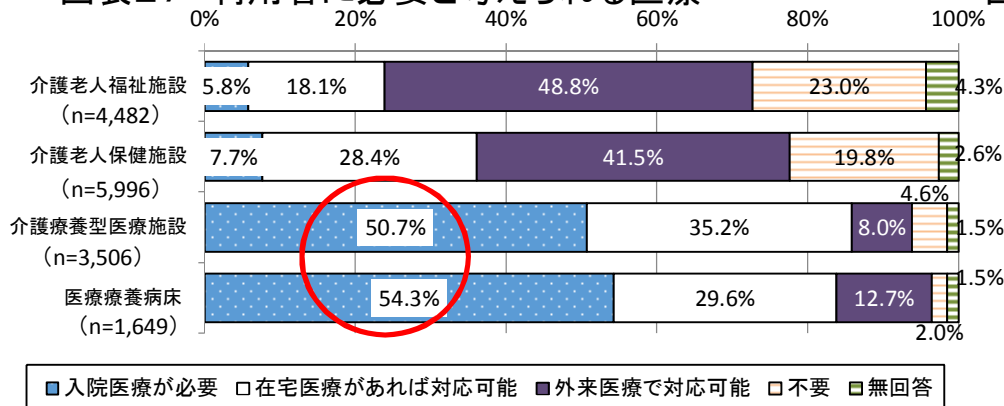


## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

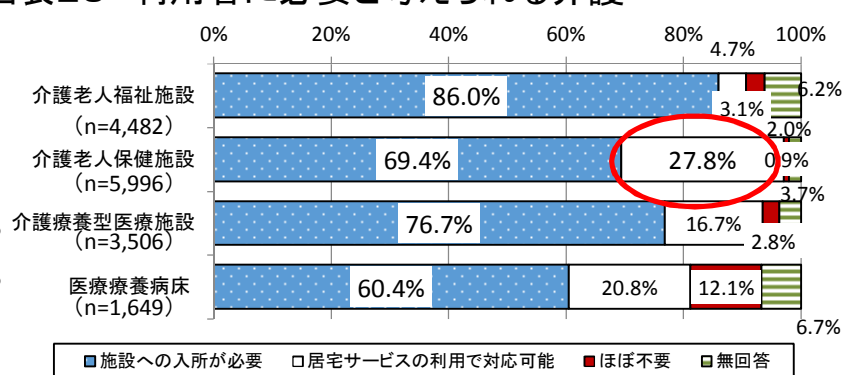
### 6-4. 入所者・入院患者の状況(利用者に必要な医療・介護等)

- 看護職員が判断する、利用者に必要と考えられる医療は、介護療養型医療施設と医療療養病床では「入院医療が必要」な者の割合が高く、50%を超えていた。
- 看護職員が判断する、利用者に必要と考えられる介護は、介護老人保健施設においては「居宅サービスの利用で対応可能」な者の割合が約30%を占めていた。
- 看護職員が判断する、最も適切と考えられる療養の場について、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設、医療療養病床ともに自施設類型が適切との割合が多かったが、介護老人保健施設においては、「介護老人福祉施設」が34.8%を占め、「自宅」(22.9%)や「介護老人保健施設」(26.0%)が適切と考えられる者の割合よりも高かった。

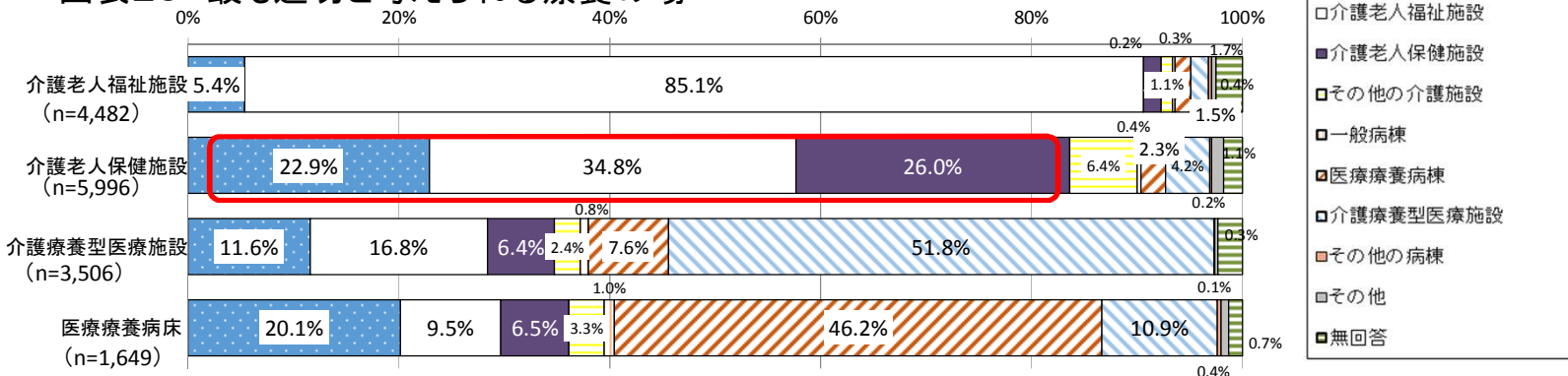
図表27 利用者に必要と考えられる医療



図表28 利用者に必要と考えられる介護



図表29 最も適切と考えられる療養の場



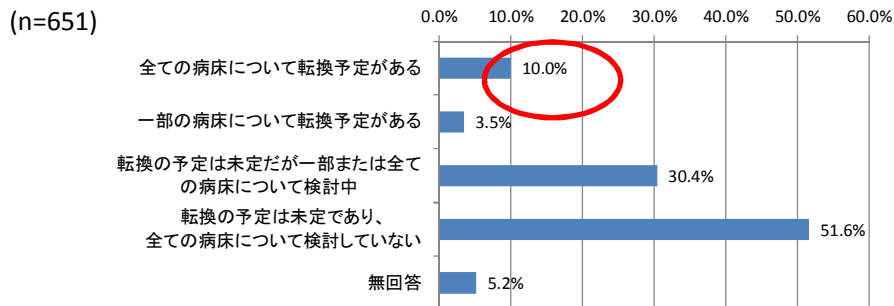
## (5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

### 7. 介護療養型医療施設の転換意向

○病床転換意向についてみると、全ての病床について転換を予定している医療機関が10.0%を占めていた。

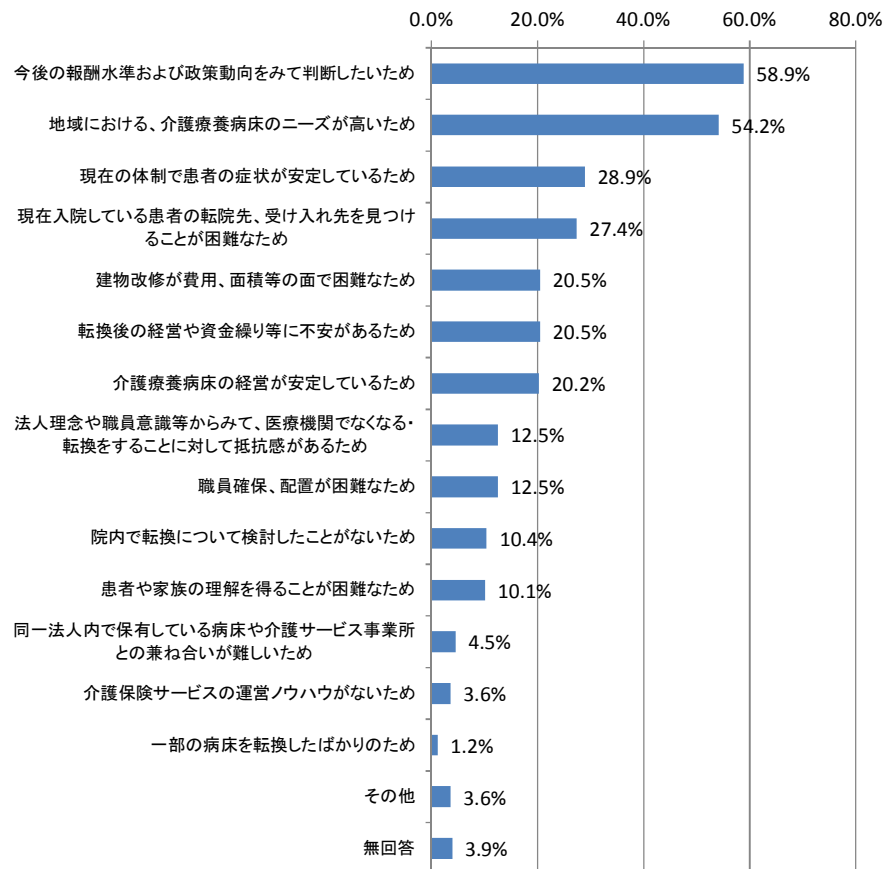
○転換の意思決定において必要な要素は、「転換後の経営状況・採算性」「現在の介護療養病床の患者の医療ニーズ」「近隣地域の医療および介護のニーズ」等の割合が高く、50%を超えていた。

図表30 病床の転換意向(複数回答)



図表31 転換が未定である理由

(転換を検討していない施設:n=336)(複数回答)



図表32 転換の意思決定において重要な要素

(転換を検討している施設:n=281)

